

【全体概要】 ‘あすみ’は農研機構果樹茶研究領域で育成された品種である。完熟果では糖度が高く、非常に食味が良いという特性から、既存品種を凌駕する果実需要が創造できると考えている。柑橘栽培に特化した地域に導入すれば、農家の経営安定、産地振興に込めることができる。生産者組織や関係機関と協力し、栽培技術を確認し普及定着を図る。

新品種・新技術等の概要

1992年に果樹試験場興津支場において、‘カンキツ興津46号’に‘はるみ’を交雑して育成された品種である。2012年3月登録。果実は150-200g、果皮は橙色で薄い。果面は滑らかで、剥皮はし易い。三重県南部において、施設栽培では1月中下旬、露地栽培では2月下旬が収穫適期である。糖度は15%以上と高く、食味は良好である。また、βクリプトキサンチン含量が温州ミカンよりも多いことが示唆されている。令和3年3月現在、熊野農林事務所管内において施設栽培と露地栽培で試験栽培なされている。



ハウスあすみ
結実状況



ハウスあすみ
果実断面

主な取組内容

試験場等と連携し、苗木育成、摘果、剪定等栽培技術の検討、収量性の検討、冷蔵による長期貯蔵の検討、機能性成分の分析、利用促進調査のためのアンケート調査を行った。さらに生産者と協働して、現地実証圃を設けて施設及び露地栽培技術の検証を行った。実需者と連携して、販売戦略、品質評価の検討など、ブランド確立に向けて商品化に関する協議を行った。

実施体制図

紀州地域農業改良普及センターが中心となり、生産者、実需者、県研究機関、県市町行政担当課との連携を図りながら、各機関の調整や事業の進行管理を行う。実需者は、量販店への出荷・販売を行うJA伊勢三重南紀地区本部、地元商系出荷業者、JA全農みえを想定する。産地指導において、農業革新支援専門員と連携する。

三重県 関係機関の総合調整、栽培指導

生産者
JA中晩柑部会
栽培技術確立

JA伊勢三重南紀地区本部
商系集荷販売業者
JA全農みえ

販売に関する評価

市町協議会
営農連絡会
生産振興
事業対応

実績と今後の展開

無加温施設で栽培されている3年生樹に対し、CO₂施用を行ったところ、収量は2 t/10 aとなった。また、平均糖度16.1度と高品質な果実が生産できた。

果実の生育ステージと土壌水分量の関係性調査により、土壌水分量が増加すると裂果が助長される関係性が確認できた。影響の高い時期については追跡調査が必要。

今後は、事業の成果をもとに普及拡大を図り、新たな需要を開拓し、新たな産地ブランドの確立を目指す。